

小論文

第1問

下記の文章は、尾崎寔『ゴルフとイギリス人』（筑摩書房、1997年、127-128頁）の一節である。文章を読んで、後の問いに答えなさい。

そんな国で女性を閉め出すなど、およそ考えられないと思ってしまうが、イギリスでは「クラブ」という組織自体、女人禁制ではじまったもので、ゴルフも例外ではなかった。市町村が運営しているコースは別として、プライベートであれば、今もって女性のプレイについて厳しく規制しているところがある。まったく立入禁止というのはまれでも、指定した曜日とか、ある時間帯のみプレイを認めるといった具合である。プレイは許すが、クラブ・ハウスへの立ち入りを禁じているケースなら珍しくない。

今や女性のほうが下手で、後続のパーティーをイライラさせるから、という口実も色があせてきたとすれば、もともとゴルフ場が、男のための場所であったという歴史的事実に目を向けるしか、理解のしようがないことになる。『ヨーロッパゴルフ武者修行』で、すぐれたコースレポートやゴルフ論を展開しておられる中村治氏によれば、ゴルフ・リンクスのことを俗に“Eveless Eden”とって、ゴルフコースは本来女性抜き、男だけの社交場だったという。イヴのいない楽園に逃げ込みたくなるほど、イギリスの男性が昔から虐げられてきたわけではなく、むしろ、貴婦人に憧れ、生命を賭して仕える騎士道の、きらびやかな部分だけが強調されるようになった文化に、男たちが疲れてしまったのだろう。“stag party”といえは男だけのパーティー、男同士で踊る“stag dance”というのものもある。しかし“stag”は、普通「去勢した雄牛、雄豚」の意味で使われていて、そうなると、女性禁止のゴルフコースも、女性に奉仕することに疲れ、男でなくなってしまった男どもが群れているコースという、皮肉な見方もできなくはない。

設問

- (1) ゴルフが女性を閉め出している理由について、本文の中から引用しつつ、あなたのコメントを加えて200字以内で述べなさい。
- (2) ゴルフ以外にも、スポーツでは男性のみでスタートし、歴史的に徐々に女性にも開かれてきたものが多いが、スポーツの性差に関する現状について、あなたの意見を300字以内で述べなさい。

第2問

次の二つの文章（イ）と（ロ）は、マイケル・A・リーズ、ピーター・フォン・アルメン著、大坪正則監訳、佐々木勉訳『スポーツの経済学』（中央経済社、2012年、3・4頁および136・137頁）から抜粋したものである。それらを読んで、後の問いに答えなさい。

《文章（イ）》

2008年10月31日、フィラデルフィアは麻痺状態だった。というのも200万もの人々が—140万人の都市ながら一町の中心部に押しかけたからだ。学校は空っぽになり、乗客がいなくなった地下鉄は運休した。保安訓練のためでも選挙運動のためでもない。それはワールドシリーズ制覇のフィリーズを祝うためだった。

スポーツは人々の心をとらえ、独特な位置を占める。それは大学や都市、あるいは国がアイデンティティを確認する手段となってきた。①19世紀初め、大学は学生にアイデンティティを持たせるため、フットボールを利用した。都市は、野球、フットボール、バスケットボールの本拠地とならなければ、「一人前の」都市ではないとされた。そして国は、政治・経済が一流であることの証明としてオリンピックを利用した。

またスポーツは外交政策の手段ともなった。1971年、米国の卓球チームによる「ピンポン外交」は米中国交回復の第一歩となったように、国と国の親交に利用された。他方、1976年、1980年、1984年に起きたオリンピック・ボイコットのように、国と国との対立にも利用された。

スポーツへの熱狂は、当然、スポーツ・ビジネスの世界で一攫千金を狙う者たちを招き寄せる。スポーツ産業がきわめて小規模な企業から構成されているためだ。雑誌「フォーブス」によれば、北米の四大スポーツ（バスケットボール、野球、フットボール、アイスホッケー）がもたらした2008年の総収入は、190.9億ドルだった。全産業でみると、収入の上位10社にもランクされない額だ。その収入は、4583.6億ドルの売上高だったロイヤル・ダッチ・シェルの24分の1であり、191億ドルだったCIGNAインシュアランスより少ない。とはいえ、スポーツ産業と違って、石油業界は新聞紙面を常に賑わせているわけではないし、CIGNAのようなローカル保険会社はイブニング・ニュースでも取り上げられない。

《文章（ロ）》

②チームは、全ての試合を同じ価格とするのではなく、ゲームごとにその価格を変えるならば、利益を増やすことができる。チケットの変動価格制（Variable ticket pricing: VTP）は、試合に対する期待需要に従って、チケット価格を設定する方法である。チームはある試合の需要が小さいと考えるならば、価格を引き下げる。反対に、人気があると考えられる試合には価格を引き上げる。たとえば、2009年、サンフランシスコ・ジャイアンツがニューヨーク・メッツと3連戦を行ったとき、寒い木曜の夜に行われた初戦の二階スタンド席は通常10ドルするのが1ドルで、同じ

く外野席が通常の 17 ドルではなく 2 ドルだった。しかし第 2 戦、平日のゲームだったにもかかわらずジャイアンツのエースがマウンドに立つことから、同じ席はそれぞれ 19 ドルと 27 ドルになった。首振り人形がお土産についた日曜の第 3 戦、ジャイアンツは二階スタンド席の料金を 23 ドルに上げた。これらの価格のいくつかは試合前日に決定された。チケットの変動価格制は、プロ・スポーツ全体で大きな傾向となっているようだ。2004 年時点では、変動価格制を導入していたのは、MLB の 9 チームにすぎなかったからだ。

設問

- (1) 傍線部①「19 世紀初め、大学は学生にアイデンティティを持たせるため、フットボールを利用した」とあるが、あなたはスポーツの部活動が大学に存在することの意義をどのように考えるか、250 字以内で述べなさい。

- (2) 傍線部②「チームは、全ての試合を同じ価格とするのではなく、ゲームごとにその価格を変えるならば、利益を増やすことができる。チケットの変動価格制 (Variable ticket pricing: VTP) は、試合に対する期待需要に従って、チケット価格を設定する方法である」とあるが、チームだけでなく観客も含めた全体の利益を考えると、チケットの変動価格制は望ましい制度と言えるか、あなたの考えを 250 字以内で述べなさい。